

# 目黒区と崇文区の交流

# 10周年



10年前に調印式が行われた崇文区龍潭公園・龍吟閣

平成3年10月、目黒区と北京市崇文区は「友好協力関係促進のための協定書」に調印しました。以来、教育や文化などで、さまざまな交流を進め、両区民のきずなを強めてきました。10周年を迎える今年11月5日～9日には、区、区議会、(財)目黒区国際交流協会の共催で、崇文区人民政府および人民代表大会代表团、崇文区文化交流団のかたを招き、記念事業を予定しています。これを契機として、両区の友好交流をさらに深めていきます。

国際交流担当 (☎3715 - 9657)

## 10年間の歩み

区では、「世界に開かれたまち目黒区」を目指して、外国人を差別することなく、多様な価値観や異文化を理解・尊重し幅広い国際感覚を養うため、国際交流と国際理解施策を推進しています。友好都市である崇文区との交流は、国際交流施策の中核を成すものです。

## さまざまな交流

昭和54年3月に、都と北京市が友好都市の提携を結んだことから、56年、故塚本俊雄区長(当時)が、都区市町村中国訪問団の一員として北京市を訪れました。その折、崇文区を訪問したことがきっかけとなり、崇文区との交流が始まりました。3年10月の協定書調印により本格的な交流が始まり、以後、目黒区からは友好交流訪問団、友好視察団、スポーツ交流視察団など8回の友好訪問団を派遣しました。このほかにも、高校生などが参加する日中青少年交歓キャラバン、区職員の友好訪問団なども崇文区を訪問しています。

また、(財)目黒区国際交流協会では、区民の文化交流団を4回派遣し、中国の社会と文化を知るために中国語ワークショップも行っています。



崇文区から友好代表団

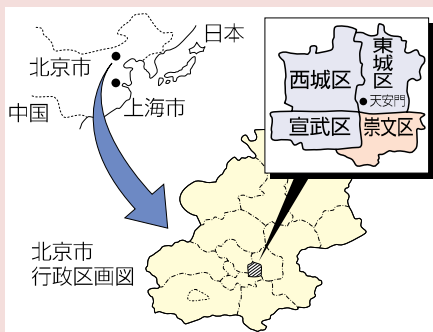
も行っていきます。一方、

## 崇文区ってどんなところ？

崇文区は中国の首都・北京市の中心4区の一つです。故宮博物院・天安門広場に比較的近く、区内には北京の名所の1つ天壇公園(写真)のほか龍潭公園があります。



また、古くから「工芸品の町」と呼ばれ、絹製花、工芸鳥、象眼細工、骨彫刻、七宝焼などの工芸品が作られています。経済は商業とサービス業が中心で前門、崇外、花市、天橋などの著名な商店街があります。面積は16.46k㎡で、目黒区(14.70k㎡)より少し広いものの、人口は約41万人で目黒区(約25万人)の約1.6倍となっています。



- 1 目黒区地域福祉審議会中間のまとめ
- 2 「情報ボックス」ほか
- 3 「特集」地球のためにいいことしよう
- 4 「情報ボックス」「保健衛生ガイド」ほか
- 5 「区政の動き」「10月の相談」ほか
- 6 「情報ボックス」ほか
- 7 「区政の動き」ほか
- 8 「情報ボックス」ほか

参加してみませんか？

### 目黒区国際交流協会

目黒区国際交流協会は、ボランティアの創意と活力を活かし、国際交流活動を行う財団法人です。上記の派遣交流のほか、外国人のための日本語や料理教室をはじめ、外国人ボランティアによる外国語ワークショップなどを行っています。

(財)目黒区国際交流協会 (☎3715 - 4671)

## 崇文区で行われた児童・生徒書画作品展



目黒区国際交流協会の中国語研修交流団が、崇文区のホームステイ先でギョーザ作り

人民代表大会訪問団、針灸の専門家や太極拳の交流団などが目黒区を訪れました。また、職員研修派遣も相互に行われています。

さらに、双方の児童・生徒などの書画作品展も10回開催されました。11年からは両区の子

## 記念行事を開催

10年間の交流の様子や崇文区

賀状の交換や崇文区図書館への児童図書・絵本の寄贈も行っています。

高生による大気測定結果の交換も始まりました。

調印時に記念植樹した雪松(写真は昨年、区長を団長とする訪問団が崇文区を訪問したときのもの)

